
変化球研究隊　～シュート編～

津梅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変化球研究隊 ～シュート編～

【Nコード】

N9466Y

【作者名】

津梅

【あらすじ】

打者としてもつとも苦手なシュートを覚えてしまおうとシュウのもとに教わりに行くタケルだが、やはり指の力加減が難しく、また仲良くなった異性、渡辺とも、その何でも言いやすさから、逆に距離が離れて行って、さて悩む。

（前書き）

変化球を感覚で覚えようとして生まれた小説です。
安いので気楽に読んでください。

右投手なら右打者に、左投手なら左打者へと、その方へ逸れて食い込むシュートであるが、その用途は空振りを取るより凡打を打たせることにあり、ただの一球で打者を打ちとることも可能なら、打者にすれば「いやらしい」球種の代表格といえる。プロでも投げる投手は少なくなく、投げ方も人によれば握りを変えるだけでほぼ直球と変わらぬ感覚で投げられる容易さもある。ただ、投げられるからといって使えるかといえば、必ずしもそうならないのが変化球の難たるもので、一つ制球を間違えると真芯に捉えられ、読まれて流して打たれると、ヒットコースに飛んでいくことも多い。直球と組み合わせで芯をずらすか、スライダーと組み合わせで横幅を作るか、投球の幅が広がることは確かな球種だが、さて、本編の主人公、中学二年の野球部で、外野だったものが監督の指示で投手の練習もすることになった児島タケルは、この変化球を覚えられるのか、否か。例のごとく同じく二年で投手の木田シュウに教えを請いに行くが、行った理由は次のようで、

「俺、打者として一番嫌な変化球って、シュートなんだけど、あれって、どうやって投げるの？」

「シュート？ ツーシームで投げれば人によったらそれだけでシュートになるよ」

との回答をもらって、さてツーシームというものがわからない。バックスピン中のボールのシームを仮に羽として、それが四本あるか、二本あるかとの違いで、四本と二本では揚力に差が出るから、ツーシーム（二本）はストレート（フォーシーム・四本）より伸び

が少なく、沈んだように見える、その差で凡打を打たせる、と説明を受けるが、物理学も学んでいない中学生の身空にはちんぷんかんぷんときて、首を斜めに傾け、無意味に空を見上げて失笑する。理屈、理論は置いて、シームに指を添えるその握りを教わって、ストリートと変わらぬ感覚で投げてみると、沈んだような、沈まないような、投げた本人には具合がわからず、打席に立って見ていたシュウは、

「まあ、沈んだかな」

と、こちらも味気のない口ぶり。使えるか、使えないかを問うても「微妙」と返ってくる。そもそもシュートは曲がるものと思っていたタケルには、納得できるものがない。

「それで、この投げ方でシュートしないってことは、俺はシュートを投げられないってこと？」

「いや、そういうわけじゃない。リリース時の指、特に人差し指かな？ を意識して投げると微妙にシュート方向に曲がったりもする。あとは要するに練習次第ってことだろ」

「指？ 指ねえ」

「ただ、あまり曲げることに意識し過ぎて、球速が落ちるようなら、この手の変化球に意味はないからな。その辺り、誤らない方がいいぞ」

試しと、言われた通り人差し指に力を込めて投げてみると、込め過ぎて放られた球はシュート方向に真っ直ぐすっ飛んで、ストライクゾーンの遥か横を通り過ぎてと、打者が立っていれば危険球で―

発退場の棒球。シュート方向に向かって、シュートになりそうな感覚があるから、間違いはないと失敗も悔やまず何度も投げるが、力を込めれば棒球、緩めれば曲がったように見えるが速度がないと、まあ思い描く理想には程遠く、練習すれば練習するほど、試せば試すほど、投げれば投げるほど、出来が遠のく悪い循環に嵌って、次第自信も失えば不愉快も溜まって、そのうちに「キイッ」と発奮をする。逸れた球をとぼとぼ肩を落として拾いに行くと、フェンス越しに、あのカルタ部で同級生の女子、渡辺の姿があつて、

「また別の変化球？」

「うん？ うん、上手くないかな」

この二人、前回の一件で仲良くなつたはいいが、まだ恋仲というに非ず、近くあるようで遠く感じる心の距離は、機嫌のいい時には妙が付くほど合うが、機嫌を損ねているときは互いに抜き差しがわからず距離も測れずに機嫌も滅する一方となるなら、このときもまた、渡辺の方は、ただ好意から見ていただけの、あわよくば一緒に帰れないかとの目論見も、タケルにはその意を汲みとる余裕がなく、返事も単発と素っ気がない。よく他人に気を遣うこの男は仲の良い男友達にこの手の態度を取るとはほばないが、これが男女の間の面妖というがごとく、渡辺にのみ発するから裏を返せばその恋心も未熟ながら確かなもので、確かと薄々気づいているから嵌り抜けせず、

「何？ そっちは暇なの？」

と不機嫌も隠さず口にして、すぐに後悔しながらその悔いを改めることもせず内に閉じ込めて無理して悪ぶれない。それが渡辺の癪に触れないはずもなく、こちらもブスッと膨れた面をすると、

「別に暇じゃない」

と、急にそっぽを向いて踵を返して帰ろうかとする。不機嫌に任せて悪態をついた手前、それを止めようとはしないが、止めずにいれば渡辺の方も意地を見せて止まろうともしない。そうして結果、本日はそのまま帰ってしまう。

こういう喧嘩ともいえない恋に不慣れな突っぱね合いは二人の間に茶飯事とあるが、しかし心根の優しいタケルだけに、何でも言いやすく、喜怒も哀楽も態度に表しやすい渡辺をそのまま放置して気の沈まぬ男でもなく、風呂に浸かって今日の練習の疲れを癒している最中、思い通りにいかなかったシュートの復習を頭の中で行いながら、さつと唐突に挟まれる渡辺への態度の反省に悔やみもして、やきもきとしながら「うーん」と顔の半分まで湯に浸り、シュート、渡辺、シュート、渡辺と、気に揉む二つに湯の熱さも相まって、頭がぐらぐら、眼前はぐるぐる、そのうちのぼせて体はふらふら、風呂から上がればすぐに布団の中に沈み込む。

寝入って見た夢にまでシュートと渡辺のことが現れると、シュートは曲がらず大暴投、渡辺とは、喋りやすさ、言いやすさが裏目に仲違いで離れて行つて、思い通りにいかないもどかしさに、女に捨てられそうになる心苦しさと傷心に、夢は悪夢となつてうなされて、どちらも、左に逃げるな、俺から逃げるな、逃げるな逃げるな、手繰り寄せようと叫んで寄せられず、対戦打者への頭部にぶち当たる危険球で一発退場、相手は失神、救急車で運ばれ意識不明の重体で、渡辺には、

「あんだなんか本気で嫌い。もう話しかけないで」

とフラれて終いの奈落転落、夢というに心臓が止まるかと思うほど苦しくて、ハッと目を覚ましてみれば、すでに朝。息は上がって体は汗にまみれて、寝たはずにも拘らず一練習済ました後のように疲れている。眠気も中途半端に残って、それでも時間だからとしびしび学校に向かい、校内にて渡辺を見かけると、ひとまず昨日の態度の悪さを、

「昨日はごめん」

と唐突に一言詫びて、相手の反応も前に足早に教室へと逃げて、これで許してもらえるのかどうなのか、悩みながら机上でうたた寝をする。授業も碌に聞かず、先生にも叱られながら過ごして放課後を向かえると、シユートの練習中、グラウンドの外で渡辺の姿を見つけて、球を拾うふりして歩み寄る。随分と澄ました彼女の顔を見て、まだ不機嫌が続いているのかと、詫びたことも損とばかりに心にもないことをまた言いそうになるが、そこはグツと堪えて、

「シユートが思い通りにいかん！」

と、くだけたように愚痴を口にして、渡辺に非を求めず、業を擦り付けず、自分を卑屈に見せて何とか彼女の気持ちに離れて行かない様にする。これで許してもらえるのか、しばし沈黙があつて、

「見ててあげるから、もう少し練習してみれば」

との返事があると、刺繍糸一本で手繰り寄せた心地がして、冷や汗を流しながら、それでも嬉しいやら。喋りやすくとも言い過ぎは禁物、不機嫌を唯一ぶつけられる相手でもぶつけすぎは御法度、限度を心得て、しかし媚びあいも居心地が悪い、その中間の重要さを思い知らされ反省をしながら、彼女が見ている中、さてシユートの

練習を再開すると、込め過ぎず、込めなさ過ぎずの絶妙な指の力加減で、己でも驚くことに理想とする、スピードに乗って横に曲がって食い込むシュートが偶然にも一球投げられてしまうのであった。

<了>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9466y/>

変化球研究隊 ～シュート編～

2011年11月28日11時46分発行